ビオトープの四季（No. 6）　湘南ひらつかキャンパス　2013/05/21

＜変身前の＞ニシキギはどうして錦というのかなと思うくらい春の姿は目立ちません。花は小さくて黄緑色のため葉色から浮き立つわけでもなく地味そのものです。ただ、注意をしてみると翼（ヨク）と呼ばれるコルク質の刃のような突起が４本ほど枝に沿って出ていて枝が四角く見え他の木々とは異なります。秋になると真っ赤に変身し、その姿から錦木と言われます。実も赤と黒の特徴のあるもので、この秋を楽しみにしましょう。

＜ニシキギ＞→

＜静御前の舞姿＞フタリシズカがユキモチソウの咲いていたあたりで大きく葉を広げています。ヒトリシズカと同じく静御前の舞姿から名前が付いているとのことですが、フタリシズカは”ヒトリ”よりずっと地味ですね。米粒より小さい白い花のまばらに付いた２本の穂が大きな葉の付け根から数センチばかり伸びています。

（静御前）静（しずか）は平安から鎌倉に時代が変わる頃の京の白拍子（今様などを謡いながら舞う芸人）で、源頼朝による義経追討の中、雪の吉野山での義経との行き別れとその後の鎌倉八幡宮神前での舞はとりわけよく知られた話です（吾妻鏡）。「吉野山峰の白雪踏み分けて入りにし人のあとぞこいしき　静や静しずのおだまきくり返し昔を今になすよしもがな」

＜フタリシズカ＞

＜四角、六角、八角---＞
ヤマアジサイがビオトープの入り口に沢山植わっています。花がだんだんと大きくなってきてポツポツと端からガクが開き出しました。長方形の四隅にガクの開いた形が多数ですが六角形や八角形も少数派ながらあります。

＜ヤマアジサイ＞

＜花の色が＞変わると言えばまずアジサイを思い浮かべますね。写真のコウホネも色が変わっていくことを初めて知りました。蕾の時から開花直後が鮮やかな黄色、そして花弁の端からこれまた鮮やかな橙色に染まっていきます。水面から立ち上がっている姿はこの時期ひときわ目立ちます。この花の根茎は白くて葉の後が残っているため骨のように見え、河骨（コウホネ）の名が付いています。また薬としても使っていたようです。葉っぱの出方も少し変っていて水中、水面そして水面から立ち上がるという三階建てです。

＜コウホネ＞

（文と写真：松本正勝）